

- 1 この『教材シリーズ』はプリントの1枚1枚に“ポイント”あるいは“引っ掛け”もしくは“メッセージ”が込められています。それに気付きながら勉強して行けば自然な流れで『高度な学力』が身につくように編集されています。

表記されている單元ごとにこれからランダムに公開してゆきますが、最終的にすべての教材を開示するのは数年先になると思います。そして数学と英語のプリントは表裏二面のうち「おもて面」しか公開しません。「うら面」にある練習問題と模範解答はすべての教材が開示し終わった時点で、その後どうするか判断します。なお「数学全般」と「英語全般」の項目の中にそれぞれ1枚ずつ「うら面」まで開示したものが入っています。

公開されている教材は「閲覧」するだけでなく、場合によっては印刷して自由に使っていただいて結構です。ただし、あくまでも「生徒が個人的に利用する」場合のみの使用許可で、この教材を使って第三者に教えたり配布したり販売したりすることは認めません。

- 2 この『教材シリーズ』は元々が“教えるための教材”であって“自習のための教材”ではありませんので、生徒にやらせる（本人がやる）だけでは誰かが手助けしないと本来の効力は発揮できません。親が無理なら家庭教師に依頼するのが良いと思います。（この利用方法は認めます。ついでに答え合わせもしてもらいましょう。）学校や塾の先生に教えてもらってもかまいませんが、それでもそのプリントを家庭教師や塾の先生に渡すことは許可しません。生徒本人の見ている前で解いたり考えたりさせてください。

- 3 この『教材シリーズ』が役に立つと思われる成績（目安となる偏差値）は以下の通りです。この場合の「偏差値」とは個々の学力テストの数値ではなく、かつて中学生全員が受験させられていたころのそれを目安としています。つまり「偏差値 50＝かつての公立中学の平均的な生徒の学力」ということにしてください。

個別指導などで1対1でゆっくりじっくり教えれば理解できる・・・「偏差値 50～」
集団授業でも先生が丁寧に教えれば理解して点数にも反映できる・・・「偏差値 55～」
家庭学習として一人で勉強して解けそうな問題だけ解いてみる・・・「偏差値 65～」
全部の問題を自力で解いてみて解けない問題だけは教えてもらう・・・「偏差値 73～」

- 4 この『教材シリーズ』のうち＜英語＞の方は高校生が英文法の勉強を一からやり直すのにも適しています。なぜなら中学1年生の基礎の基礎から高校2年生までの英文法が段階的にわかりやすく説明されているからです。いわゆる「進学校」に合格したものの、高校で出てくる英文法の専門用語や英文の基本構造がよくわからない生徒にとってはまさにうってつけの教材です。

- 5 この『教材シリーズ』に関して、どうしても桐生進学教室に直接アドバイスを申し込みたい場合などには「資料請求」のフォームからメールを送信してください。必ず返信することはお約束できませんが状況によっては説明やヒントなどを返信できるかもしれません。その際は必ずプリントタイトルの頭に付いている＜整理番号＞を記入してください。新たな発見や編集の必要があった場合には番号が変更されているかもしれませんので最新版ホームページでの番号を記入してください。

また、優先して公開して欲しい單元があればリクエストをしていただいてもかまいません。お約束はできかねますが、参考にはさせていただきます。